

ニハセンズノニ

ヨラれるおニタ



-うたいぬゆぬ-



# 今年は こたつが ヘンテコに？

↑  
ラブリャさん

毎年 ゆる夢の12月には、  
白黒の魔法の犬ずがおこた入り。

不思議な物語や 仔犬どきのこと  
お話したり 眠ったりして 過ごしています。

さて、2016年もはや12月。  
どこかから どこかまで  
やってきて ぬくもる2匹…だけど あれ？

今年は こたつに おかしな異変 色々。

とまどったり 切なかったり あたたか ヘンも  
どんな出来事 あったかな？

さあ、へんてここたつに あたりませう…

←犬先生





ここはどこ？  
これは こたつ

れんめんと生きる時の 世界の はざまに  
ぽつんと あたたか いつから どこから

そこに によきつと 白と黒  
ふんふんと鼻と尾 のびのびと

木目と 花柄のぐるりを 眺めてみる

そうっと息 しているね  
模様の一つ まばたきをしたな

へんなもの 3匹  
へんな どこかから 長旅 ここへ  
どこから どこへか

ほこほこ あたたまり始めました

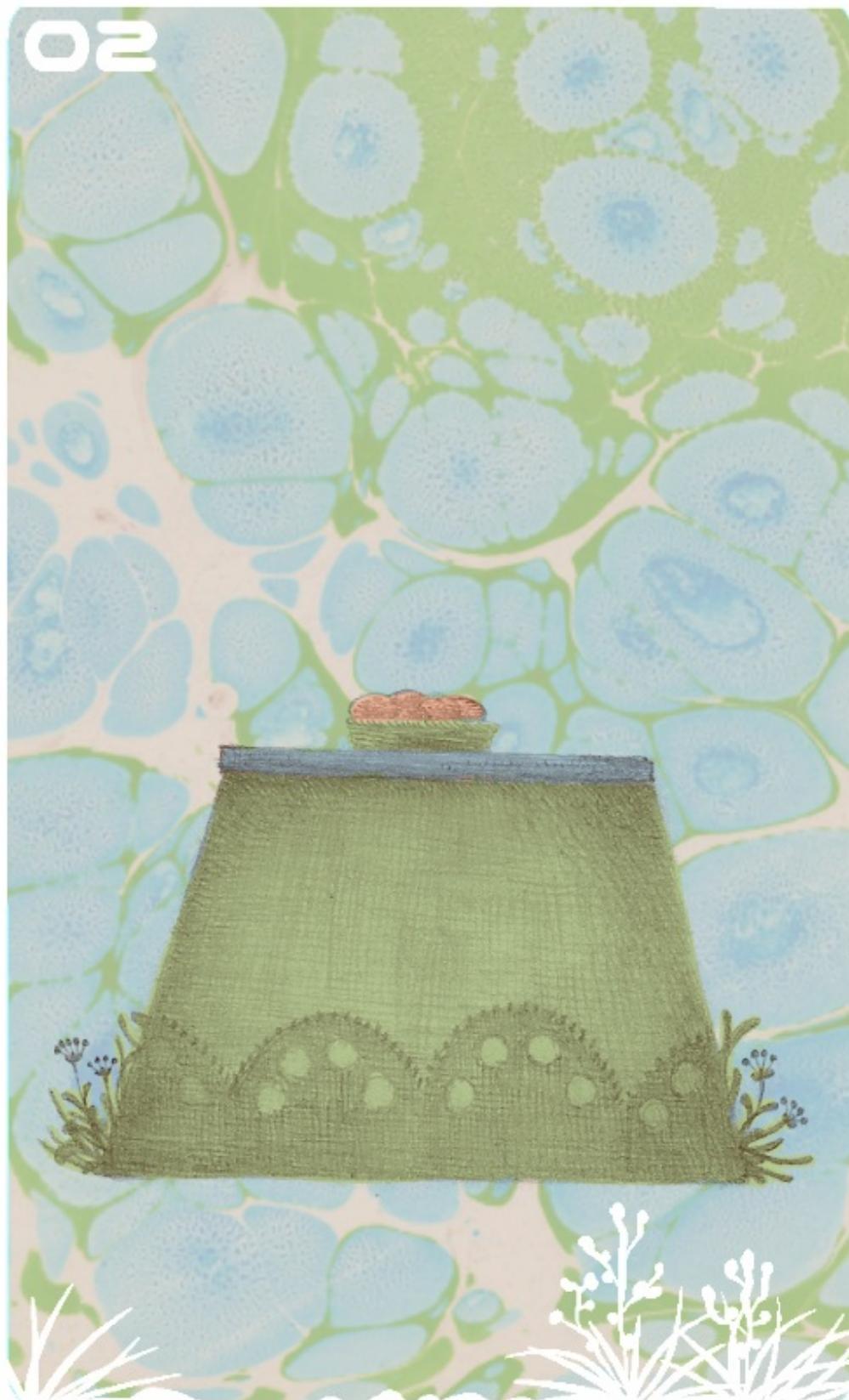
. . .



犬先生：やあ、私がへんな犬先生である。ごません食べるかい？



ラクシャさん：あ、どうも！僕が...ラクシャです。お茶、いかがですか？



まどろみ さめて くちもとべろり  
白黒の犬たち もそもそ起き出し  
かいでみれば 変化のあと

こたつが 香る 花野原に

天板は頂上 大樹の葉がそよぎ  
さえずり遊ぶのは 豆粒ほどの小鳥達

抹茶色の ふとん中 大小の花々ひらき  
近づけた鼻に 甘い 霧を吹いた

卓上のみかんは お店に 鉛筆は ベンチに

ひとしきり 小さくなって 駆け回ったら  
へんてこ白黒 ぼかぼか ねそべり

こたつになったものたちが こたつになる前に  
みた空や 包まれていた地層の 混淆の残照 響いた

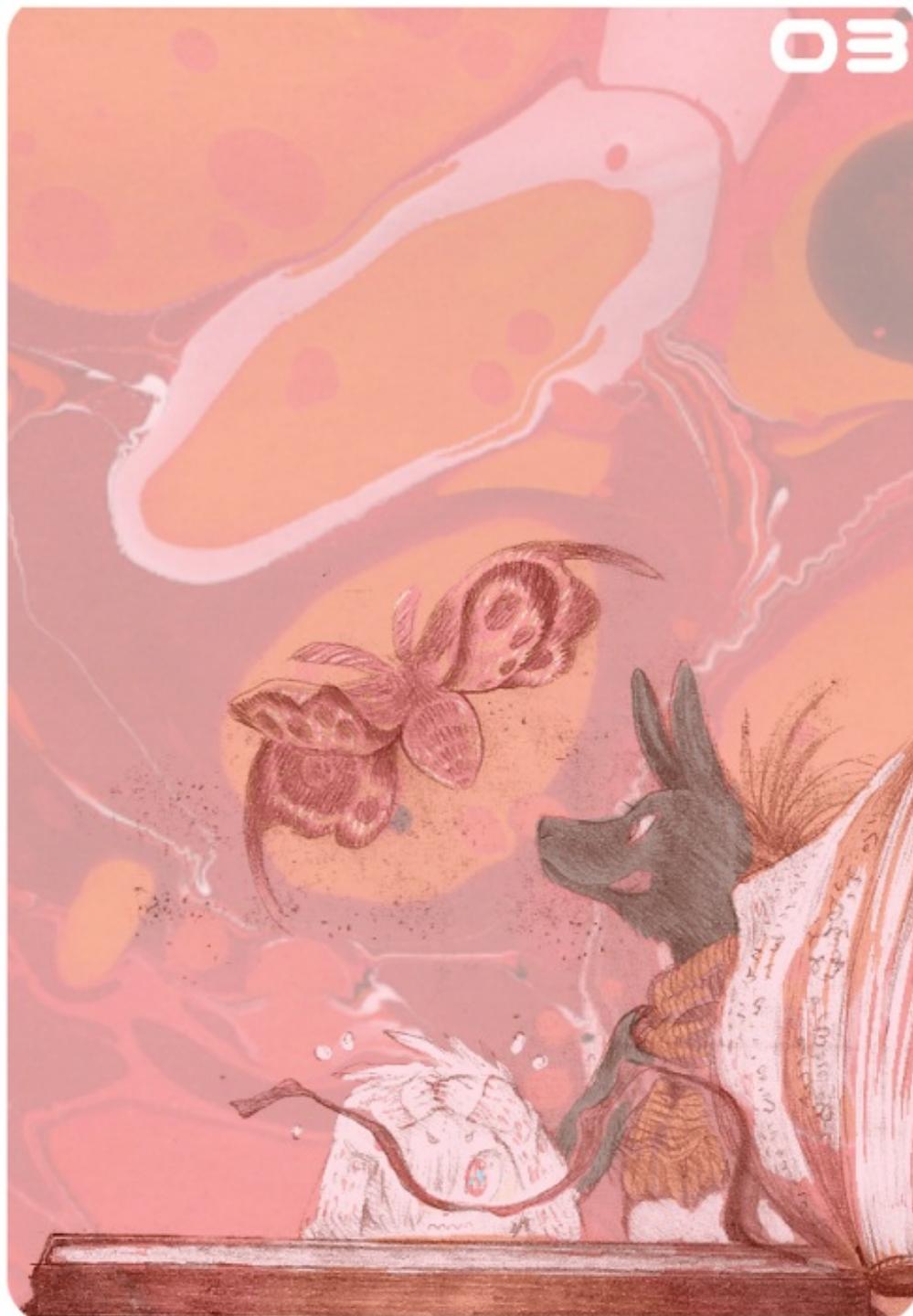
. . .



犬先生：お、アイス屋さんもあるぞ。ざくろ彗星テールカルシウム味おーくれ！



ラクシャさん：（すきなのかな、ざくろ彗星テールカルシウム味...）



まどろむ鼻先 何かがさらさら  
身震いして起きると すでに変化のあと

鼻くすぐったは ない風になびく しおりひも  
こたつの天板 立派な装丁の おおきな古書に

きしむ扉の音たて ひらくと 月夜の模様  
浅黄の紙 本の表題 ばらばらぐるぐる

脈絡のない挿絵が ところせましとひしめき  
置いていた手 ききっと何かに 挟まれた  
わっと退くと挿絵たち たんまり一緒に 飛び出した

目 石の構造 南の島の地図 駝鳥 月面 9つの頭の獅子  
林檎 熱帯の花に蔓草 窓 回転木馬 鷺の翼 寓話の飾り枠

ほえて問う 白一匹 尾を振り踊る 黒一匹に 吹き抜ける絵の風  
こたつで読んだ 描いた ものたち  
こたつは覚えて いるかもしれない  
そのかげ そのぬくもり 行きたかったふしぎなところ

ぼんやり2匹の そのあいだ  
手を振るように まったりと飛ぶ 透けた蛾を おくりだし  
おかしな古書 何事もなかったように 閉じた

. . .



犬先生：ふう 収まったか...やあ今年はこたつも変だのう、ラクシャ。



ラクシャさん：うわぁ犬先生の体がしおりひも にっ！



こたつにぬくもり そのあと はずと  
そうだ お茶とみかん 忘れてた  
まだ冷たい足をなで 見渡せば 変化のあと

台所 ぐんぐん遠く なっていく  
ちっぷす うっかり それもぐんぐん 遠ざかり  
そうだ 宇宙 広がり続けているってね

広がった後 なにが どうなる？

覚悟を決めて 2匹のじゃんけん  
だれぞ 勝ちやら わからない

白犬 すっくと 立ち上がり  
翼を得たような俊足 駆けて行く  
目指すは淹れて忘れた お茶と  
柔らかくて甘みさわやか 魔法犬仕様の みかん

行きはばっちり 戻りは遠く  
わっせのその先 こたつむり  
こぼれて飛んでいく 魔法犬お馴染みのちっぷす 呼んでいた

このへや 広がり続けたら  
そのあと一体 なにがどうなる？

光の俊足 すべりこみ  
ほら お茶 まだあったかいよと 荒い息の間に間に

はっとして 少し潤む目の先に  
みかん どこへか 流れ去る星

. . .



ラクシャさん：こ 今年のこたつ 躍動的だなあ...はあ骨がっ...



犬先生：千年以上生きたが、まだ未知があるとは。さあ 秘蔵骨ガム あっ



黒白にひき きょうは ごろりと  
こたつの恩恵 まどろむ尻尾  
眠るうち 気づけば変化のあと

こどものすがたに なっていた

もそもそぶると 仔犬たち  
ぬくもる四角 その中へ

もう わすれてしまったかな？  
いつのことだか おぼえているかな？

小さな足指 まんまるい目 せいっぱいのおおあくび

ぶええと 声して 見てみたら ラクダ  
ぼんやり はみを 噛んでいる

見渡せば キャラバンサライの夕景

壺 絨毯 スパイス 交易品を運ぶひとびと  
ごはんのにおい 輪のうた 踊りと手拍子

いつのことだか おぼえているかな？  
もう わすれてしまったかな？

いまはむかし いつかどこかに なっていく なか

すやすや2匹 いぬだんごになり  
遠き道のりの 夢を見た

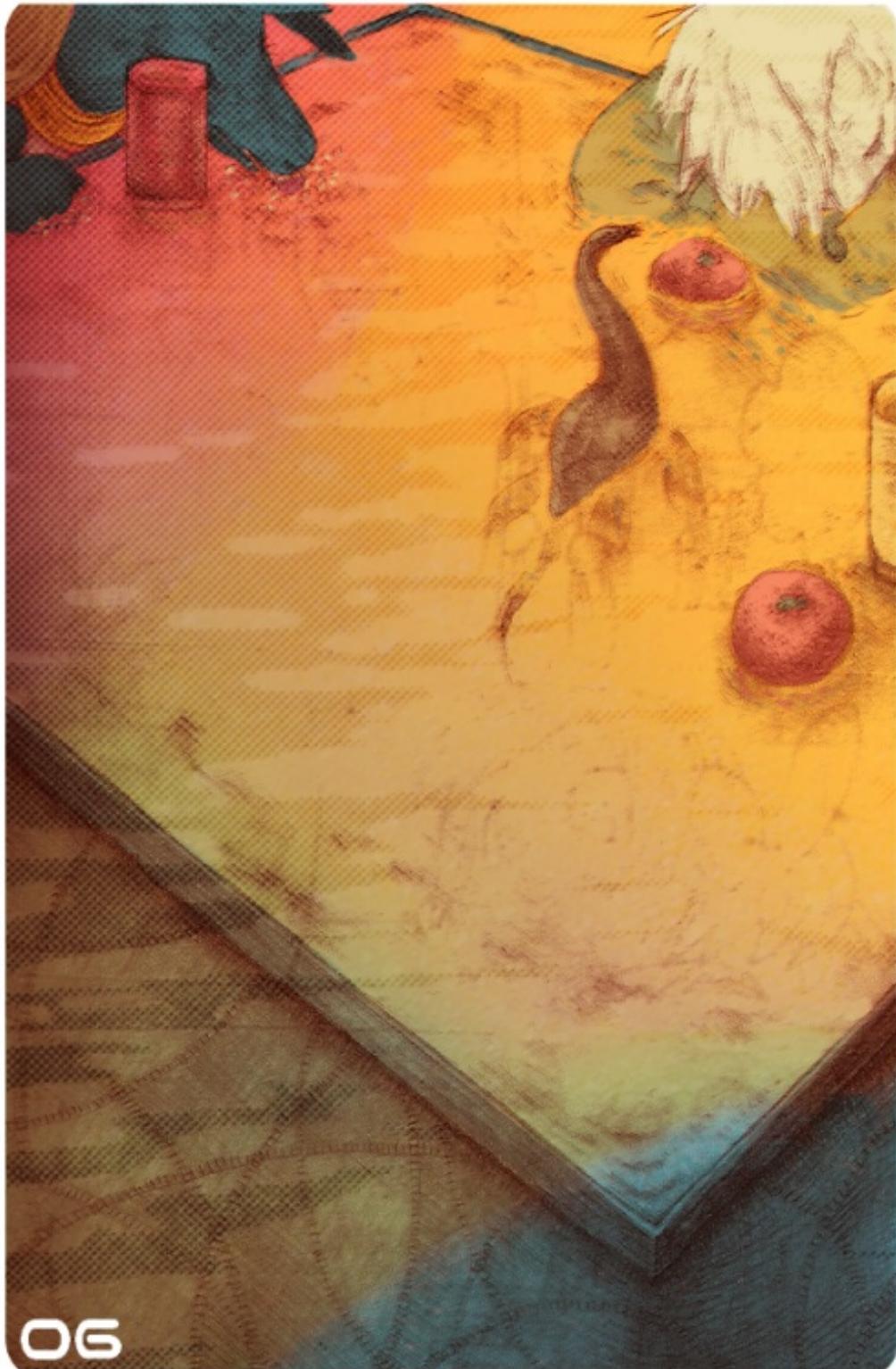
. . .



犬先生：いつであったか 何ぞそのような気のするようだ...くう～ん。



ラクシャさん：僕もどこかで そうしてたような...わふわふ。



ちゃぶ ぴちゃん

薄暗い白い部屋に 水音

薄らぐうたたね 頬なでつつ

よく見てみると 変化のあと

こたつの天板 たゆたう水面

みかん ぷかぷか  
寝息の腕に おどる光  
白い毛並みに 淡い虹色映え  
つついてみても まだ夢の中

しかたないので ペロペロすると  
どこか懐かしい味する もいなので  
黒い渦巻き尻尾 ふんぶん

どこから流れて きたんだろう  
どこへ 流れて いくのだろう

すべての水が 消えたら いったい？  
すべてが水に なったら どうなる？

アルマンダインの 黒犬の目と  
アクアマリンの まだぼんやりした 白犬の目が

泳ぎ着き あくび中の首長竜と 観合った

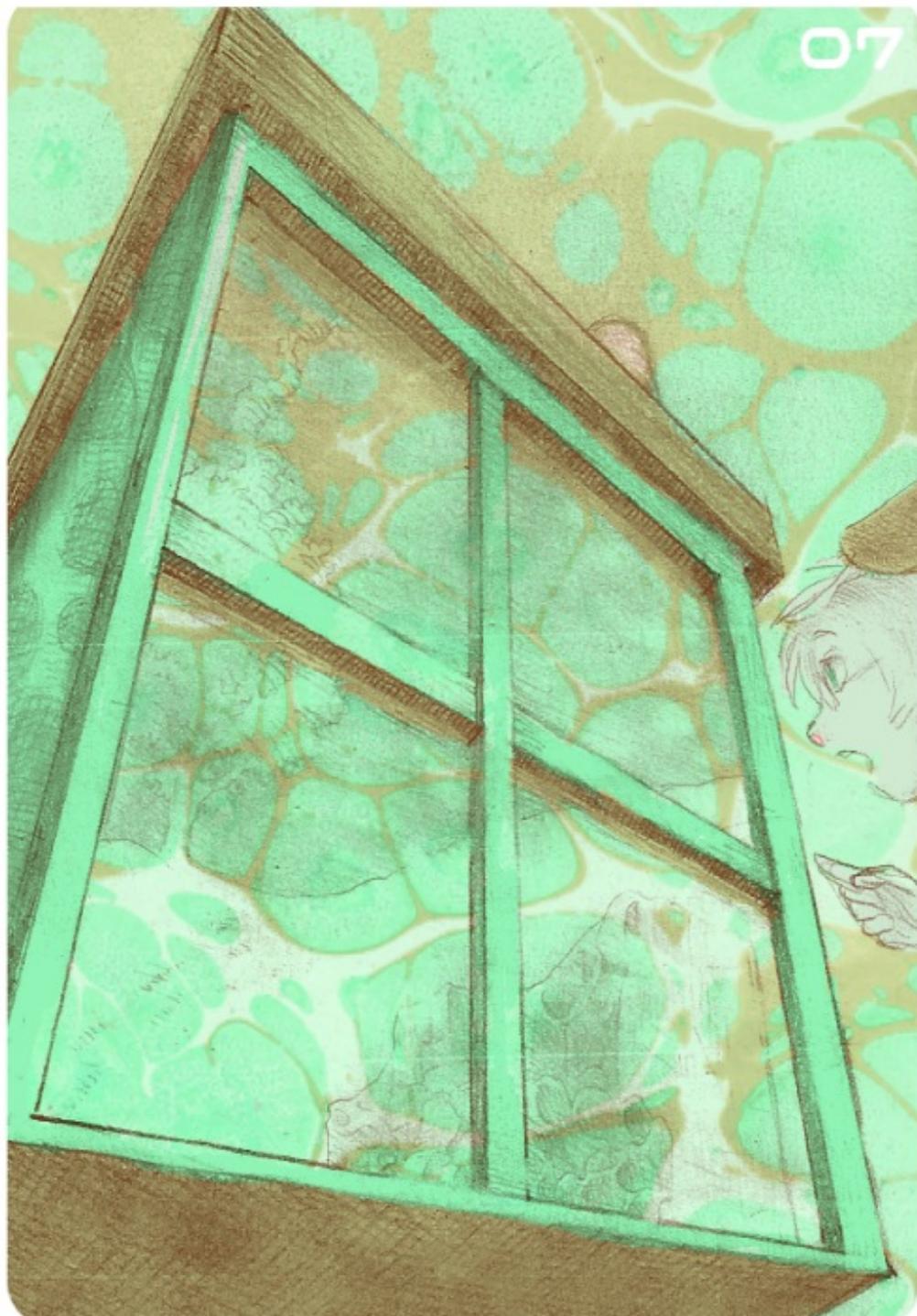
. . .



犬先生：ペロペロう～んピリッと美味しいなァ...もう一杯！



ラクシャさん：君...舌に小さなサメ 噛み付いてるよ？



ひといきついて さあ、あたらう  
がしゃんとぶつかり 驚いて  
気がつけば 変化のあと

こたつのある面 窓になってる

寒さ 暑さ わずらい なさけ  
隔て守るもの しめだすもの

謎がる2匹の 耳が ひよっと

幽かに じんた 風めく曇天  
いつかの汽車が 厳冬の野を行く  
雪かぶり 息するような音をさせ

大荷物のそわそわした顔たち 乗せて  
からす鳴く小さな駅に 写真撫でるだれか 置いて  
ぼおお と鳴らし 小さく 小さく

いつか それを みたかもしれない

凍る原野と ぬくもりの家  
ほんとうはどちらに いるのだろう  
きみは ぼくは

二匹 きょとんと顔を見合わせ  
こたつにもいちど どっこらせ

とおくで とおぼえ呼ぶ声 響いた

. . .



犬先生：あいすくりん、うまいぞ。君の分も用意してあるぺろぺろ。



ラクシャさん：こらっそんな薄着で冷たいものを...！腹こわありがとう。



なにやら ふっと めがさめた  
夢の内容 回想のそばから 薄れていき  
すこしむなしく 思う 目の先  
気づいたら 変化のあと

こたつぶとんの模様から 何かの頭

口笛で呼ぶと ひっこみかけて 見つめる目  
豆さしだすと のびてきて かすかに鳴いた

ひとつの声に いくつも 答える  
伸びたいきものたち ゆらり  
たのしいだろうか こどくだろうか

やがてぶくぼこ みな登る泡となり  
こたつはもとの 静かなこたつ

目覚めた夢から こぼれた いきもの  
憩える場所まで 旅するだろうか

姿も 名さえ うつろいながら

茶の湯気に 一粒なにか 光り きた

. . .



犬先生：我が魔力の蓄積部たる髪々も こたつに収納できるかな？よし魔改...



ラクシャさん：お、今日も目玉と星いるね。こたつの魔改造はやめようね。



こしをあたため 今日は白犬 こたつむり  
いたむとまるで おこられているみたい  
くふんと鼻をならして 一呼吸  
薄目あけたら 変化のあと

こたつのとこだけ 落ち葉が降ってる

緑に黄 真黄色 橙 赤に茶 銀 紫？  
丸まり 穴あき 少しちぎれ かさり かさり

白い毛並みにも わしゃ と乗った  
黒い毛並みの子は しゃびしゃび かじった

元気な息と 足音と 風を切る銀河の音 聴きつつ  
もう戻らぬ頃の記憶 窓際 朝の光浴びた母犬 思い出しては少し照れ  
こたつのなか かつてにそっと 尻尾 ふんふん

懐かしいとは ころころひかれて慕わしい ことらしい

千以上の太陽 千以上の月と そのぶん さすらい ゆめかうつつか  
なにかが どこかが うれしいか  
渦巻き尻尾 勢い良く振り 元気な黒犬 わおん！と吼えて 跳び駆ける

舞い散る枯葉 分解されて 森の滋養の土に なるらしい

なにかが なにかに 少しずつ響いていく  
いみの うやむや すやすやとけて  
へんてこ2ひきの 童心の寝顔

・ ・ ・



犬先生：ぐう...ぐふふ、もう食べられないのだよ...ふびい...



ラクシャさん：（何枚食っちゃったんだろう、落ち葉...）うとうと...



骨にも沁み込む 寒さになでられ  
ひとふんばりの、ひと段落 さあ こたつだ  
じんわり解凍 目をあけたら 変化のあと

こたつのまわり 空撮の景色に なっていた

こたつのつあー?“行きたい ところは”?

とまどう 白犬　　にやりと 黒犬  
風吹き抜けて ひらけた 先は

伝説の祭り 神々のくらし たたかい  
恐竜の卵 孵る地 竜の眠るところ  
へんてこ機功 魚が降った日  
発明の瞬間 読めぬ文字の意  
歴史に名を残す怪人物の 高笑い

まだまだ あるねと 白い尾も ふわふわ

宇宙の果て 太古の船  
深海の奥 未知の動物  
初めての生命 何種もの原始の人々  
音楽の発見 別の銀河

へんなのだって あったらたのしい

月夜の柄の巨鳥 指先程の太陽が育つ畑  
街灯の頭をした騎馬 通信する鉱石鯨  
耳と鼻が長い塔や 見渡す一面の綿飴花  
星を吞んで泳ぐ 伝説の生き物も

美味しい椅子 楽器の声の獅子 水で出来た野原とみて  
いまが化石になったころ...といいかけ やめた

あらゆるもの いつか そのとき  
だれも思いうかべぬ空と地  
幾つものはずの、みえぬ姿 そのとき  
ぼくら どうなる？

さあ、ありがとう もう、もどろうね

不思議な空間 どこかからの 光と影

. . .



犬先生：いつしか、こたつもだろうか...おおなんと惜しすぎることもよ...ほっぺすりすり。



ラクシャさん：ほんとうに大好きになったんだね、おこた。



黒犬 伸びをしながら すやすや ねいき  
わしわし前足 何の夢かな？  
そのとき 爪の先 変化のあと

小さな探検隊が やってきた

おそるおそる ぷるぷると  
未知の動物 へんてこりぽーと中

非常に獰猛 たくさん人食い ほんとかな？  
鼻息で帽子飛ぶひと 歯にケチャップ塗るひと  
起きず迫力がないことに くそっと怒りちらすひと

苦いからいことばかり 起こる 続く だからせめて  
おもしろさのため その あまりに  
その粒 流れ

”発見”のまえから 大陸はあり  
だれかたちのため 動物が滅んだ  
未知のお祭り 炎の村 残ったは 太陽の意匠  
森の人々 時計やチョコや へんてこ とりひき

珍品・名品の影 血と涙 大勢は知らない  
それでも 発見と未知 ずっとの 夢だった

この海の先 なにがあるだろう  
夢と野望 あふれ湧き上がる ばかりに  
その粒 流れ

謎は自由が大好きで 分類されると 魔力が減ってく  
分類は謎が むずがゆいが嫌いではなく 書き留めたくてしょうがない

それがぐるぐる 魔法になり それがぐるぐる 科学になり

ぐおおと咆哮 黒い毛並み 濃い赤色の眼  
おおきなあくびと ケチャップまみれの 帽子ぺろり  
起きた黒犬 のびをし直す その先

ちっちゃな探検隊 やったぞー！と跳ね 駆け転がっていった

． ． ．



犬先生：ごるるる... ふあ～あ やぁラクシャ、私は先ほど トマト調味料の夢を見たので  
ある。



ラクシャさん：うん、食してたよ実際に。



きょうも きょうとて  
ひとふんばりの ひと段落  
ご褒美 めくもり 変化のあと

こたつの姿 こつぜんと

おーい どうしたんだい  
新しいきれ かけてあげる

草かげ 岩かげ 並ぶ柱の奥

だいじょうぶにしていこう  
天板だって きれいにふくから

木陰 月影 並ぶ幾千の門

いろんなものが 喜び 落ち込み おどろいて  
その思い できごとの奥  
だれもじつは しらず みぬまま  
していると 駆け足の きどあいらく

そのもの ほんとうに  
そう思い そうしていたかな？

たくさんのなか そのひとつ  
こたつもなやんで いるかもしれない

おーいおーい こたつさん  
くつしたもあるよ  
もうお茶 こぼさないよう 気をつけるから

そしたら そろそろ ぱかぱか 出てきた  
ねじが飛んで ぐらぐらした？  
それで怖く なっちゃったんだね

白犬 黒犬 ふしぎな とんかん  
しっかりと支え 踊って マッハで飛ぶ  
りにゅーある おこたに になりました

. . .



犬先生：ほーれおこたよ 私特製 かわいい冥王星もあげるから...



ラクシャさん：それ温めがい あるねっていう域じゃない！



白犬さん マグカップの お手入れ  
黒犬さん おなかの銀河 かきまぜてみた  
そのとき がりがり 変化のあと

あたっている こたつが 小さなこたつ 食べていた

のそのそ がりがり いつの間にか  
しょくもつれんさの なにかの ひとつぶ

微小のつぶを小こたつが 中くらいが小を 大が中を  
糧に育ち いきる その身に

たべたら たべられたもの ころろ どうなる？  
大きなこたつも はてれば ばくてりこたつが ぷちぷちたべた  
よわいにくを つよきがたべるって ほんとなかな？  
もしも ひとつにも てんてきいたら どうなったた？  
ぞうきにも しんけい あるそうかな  
ぞうきは どんなこと 思ってるかな

たべるて なにか かなしい  
たべるて ころろ うれしい

マグカップ きれいになった 白犬さん  
星と目玉 魔力の髪に跳ねさせる 黒犬さん

こたつの食と連 まるくする 眼のうら どこか

猛風吹きすさぶ洞窟集落 えものに泣き踊って喜ぶ 古代の家族 うかんだ

． ． ．



犬先生：私は、こたつは柑橘類の味がすると思うのである。ならばすごく 良いじゃない。



ラクシャさん：それ、食べるときに飛んだみかんの汁じゃない？



ぬくもるこたつ ふっと用事を 思い出し  
きて、と立とうとした そのとき  
気づけばもう 変化のあと

天板に 四角が色々 はえてきた

なんだかまちみたいだね と、白犬  
ではまちにしてみよう と、黒犬

こんびにの隣に 吸血鬼の城  
妖精の集落 公園と学校のあいだ  
本屋さん パン屋さん 魔石屋さん レストラン  
黒犬さんの殿堂と、白犬さんの光学図書館

だれかが ここにつくろう といい  
くらすひと つくる うるひと かうひと つどった  
ごはんたべて あつさにさむさ しのごと  
ちっちゃないきものたちも つどった

だれが ひらいた？  
つどい ひらき そのさき はては？  
ずっとあるものは ないけれど  
ねがわくば こわくないまち いつまでも

出ては 消えてく 箱の街から  
なにが さわさわ きこえたか

白犬 黒犬 耳を ふいんと  
懐かしげに さめたお茶も忘れ 見守りました

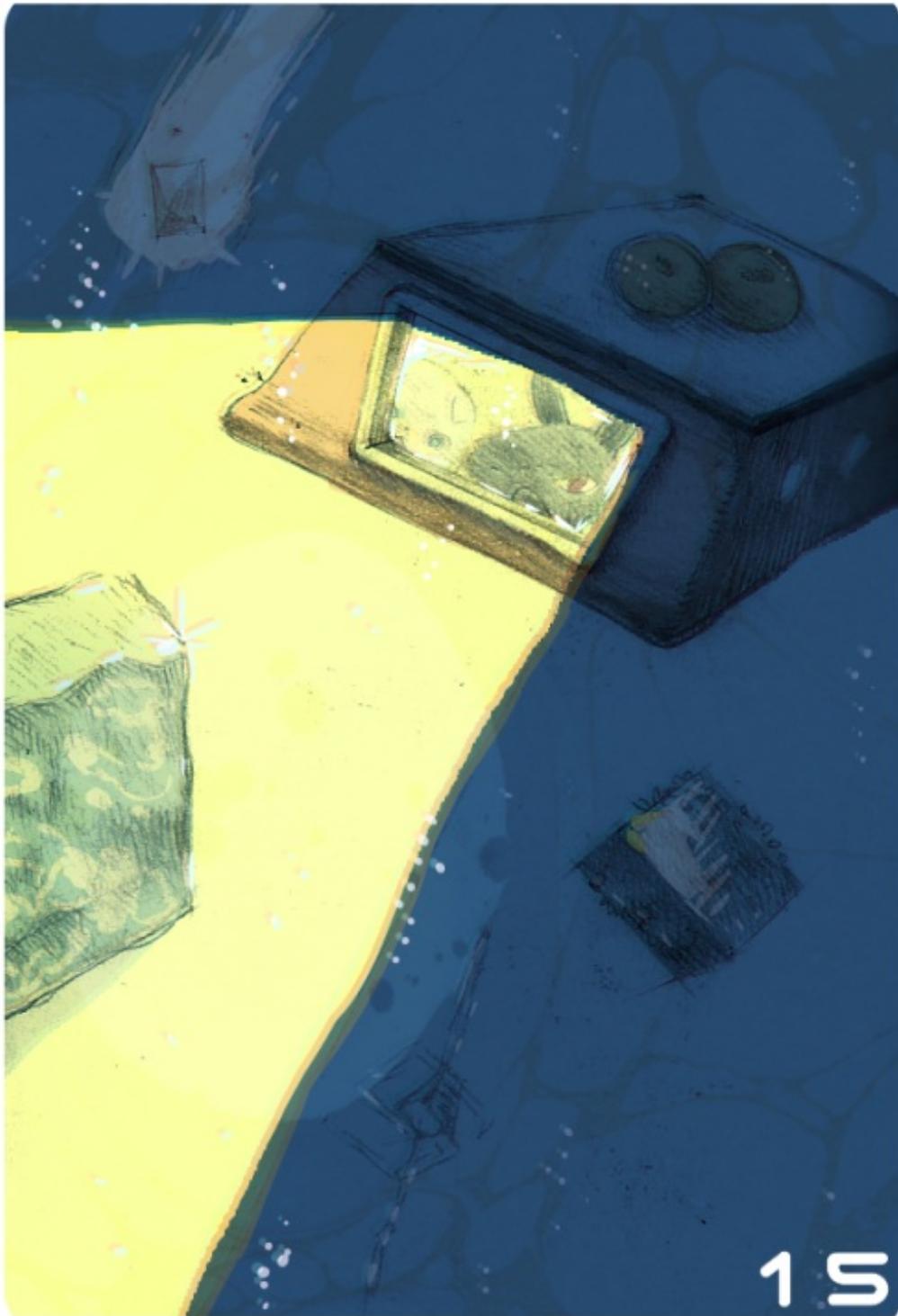
・ ・ ・



犬先生：はははっわが殿堂には、でかいカニを住ませよう。ほいっとなっ



ラクシャさん：僕が務めるそらの図書館は、空調設備魔法を整えよう...うっ肩がっ



白黒 いぬたち こたつのなか  
あったかせなかに 案内放送？  
きいているうち 変化のあと

こたつのなか 操舵室に

こぼこぼ ごぶごぶ やみのみずを

照らしながら ふね もぐる

みたことのない やわらかな いきものが  
うねうねびっくり 泳いでいった

うみは ほしの 表面だという  
それでも ふかく ふかく そこしれぬ  
どんないきもの まだまだいるかな？  
流れ ぐるうり みたし つなぎ  
ほかのほしの うみ どんنادろう

太古の大雨ふりしきり そのはてに 海が出来た日  
うみから いきもののもと うまれた日

そのなか白黒 ふしぎな いぬたち  
ぷるぷる震えて へんな音を出す なぞの石版 みつけたよ

. . .



犬先生：おほっこれは...昔私が作った粘土の工作じゃないか。



ラクシャさん：君は色々つくるねえ。



あまいにおいだけ ただよっていて  
ふしぎなこたつ そのまま そのとき  
赤いきれの 奥から呼び声  
くぐってみたら 変化のあと

くぐったはずが 中にも こたつ  
呼んでた黒犬 不思議犬仕様の おやつを がぶり

ここは異なる こたつじげん  
ここでの一日 そちらでは 数分  
まさに冬日の こがらな おあしす さ

なんだか そわそわ しながらも  
白犬のしっぽ ふわふわふれる

君は何して いたんだい？  
きいてみると

不思議に気づき はしゃいで駆け回り  
寒くなつては こたつにあたり  
わが腹宇宙で作りし おやつを食い  
へんな生物 出現させつつ  
白い犬でもあたりにこんかと かにとたわむれておった と言った

君は何をしておったかね？  
きかれたので

窓が出現していたので 窓を拭き  
そろそろおやつかな と思ったところだよ と言った

どこかでは、時を延々 こえる 対極の犬ず へんてこコンビ  
どこかでは、まったくのまぼろし

わん！とそろってわらってみた こたつじげんのそとで だれかも  
おや たのしげに ほえました

. . .



犬先生：やあ！ぼく犬先生。君も一緒に渦巻き尻尾になろうよ！...どう？



ラクシャさん：...いや、僕そんなじゃないと思う.....のであるが、いかがかな？



黒い 白い へんてこ仔犬  
こたつから すっとび出て  
ふわりと跳んで こたつの天板  
みまわすと 変化のあと

鋼鉄のこたつに なっていた

黄色いボタンに寝転がる 白  
ごろごろ ぽちっと むしのおもちゃ たれてきた

ぴりぴり あんてな かじる 黒  
キケンデス と機械音声 テルミンのような 音になり

おやおや けむりも でてきたので  
白と黒 こくびをかしげ 顔を見あわせ  
好きなボタンに 同時に座った

じどうで はやく きれいに いっぱい  
できるように なってきた そのなかの、いろいろ

ふしぎで あこがれ まほうと いけい  
まだまだ あれこれ そのなかの、いろいろ

それらは変化で たたかいで ゆめで  
どちらも こころに やどる粒たち

幾つもの地の 幾つもの それぞれのこたつ  
その一つ ボタンをおした 魔法仔犬ず

どんなことに なったかな？

. . .



犬先生：おおっ変なボタン押したら、わが銀河渦巻き尾が直毛にっ...



ラクシャさん：きっとすぐ戻るよ。はい、お茶...が星吹いてる...



けなみ ふおふお  
おはようの まぶたがまだおねむ  
でももうすでに 変化のあと

こたつが 背もあげた手も届かぬほどに  
2ひきが 縮んだ?けしきが 伸びた?

白黒 くんくん 探検してみた  
小さくなると ふとんのうねり 山や谷  
てーぶるまうんてんこたつ 頂上 よっこら  
きゅうすに湯のみ みかんや新聞 異郷の動植物 そこここに

ちいさいとみえるものも あるんだね  
おおきいとみえるものも あったんだね

では ぼくらはいったい なんだろう

後足 ペン と伸ばして 前足を ぺろぺろ ミクロの黒犬  
空の天井見て 巨大物体に驚き 吠える ミクロの白犬

風が渦巻き すうっと止み  
巨大なみかんと ほかほかお皿  
賑わう天板に 着陸しました

. . .



犬先生：幾多のうちの一つでは、私はもしかすると 昆布煮なのかもしれぬ。または星。



ラクシャさん：味のしみこみ具合が要なんだ。これがかか...えっ煮物の話じゃない？



くんくんする鼻に土のにおい  
ぐうっと伸びしてあくびして  
こたつをみれば 変化のあと

天板のうえに 植わった おおきな花

爪の先で触れたら のんびりよけた

ゆっくり呼吸をするように 光る花粉を放っては  
また のんびり しずかに戻り  
なんのためにか なにをおもうか

植物と動物 まざったでざいん その意  
ひとがもし 草木だったら？  
虫をたべる花 生体電位でうたをうたう木  
古代の種が だんだん育って咲いたという  
化石の森 水の森 旅する蝶 憩うところ

多いものは1000年以上 佇んでいきる 思いはどんな ものだらう

また花をみると しぼんでいた  
静かな呼吸ごと かすかになっていく姿

はたしてそれは みにくいだろうか

あおい あかい 瞳の先 天板の上 ころん  
ぼんやり光る まんまる いのちのもと

. . .



犬先生：わが腹宇宙に種を植えてみたのである。



ラクシャさん：なんだか芳香がするね、君のおなか。



あったか へんてこ こたつといぬず  
そういえば と思い出しげな そのとき

お茶の後のマグカップ 天板に吸い込まれていった

顔を見合わせ 手をつくと

黒白 2ひきも 天板の中へ

こぶこぶのぼっていく 泡のむれ  
夕焼け色のおどる光と 森の香り

泣いて食べたごはん 宇宙探査のニュース 雪模様

むかし 樹木や鉱石だった  
それがあわさり こたつという 存在になり

劣化せぬものは ないながら  
こたつは したしむひとの  
こころのどこか あたためつづける

鉛筆かりかり 消しゴムがしがし どうにもなこと 楽しみなこと

ものというだけでないものの  
ものところの境界を  
へんてこ2ひき 通過するうち

琥珀色の あたたかな光の中に  
こぶこぶ登る 泡のあいだに

だれも通らぬ 灰雲の曠野 冷たい風に吹かれ 歩む  
ちいさすぎる白黒2匹 みた気がした

柔らかいみかん ミニチュアの家具 流行じゃなくても好きな歌

へんてこの底の マグカップに  
羽毛恐竜のはねひとひら

. . .



ラクシャさん：僕らも随分、遠いところまで来たよね... はいお茶。



犬先生：ははは、私はまだまだまじかる、君も対極まじかるがよい。お、どうも。



へんてこくうかんの、へんてここたつ  
そこ 今日 白黒ず いがいにも

しろくろ からふる しかくく まるい

ふしぎ2ひき 箱を すとんと

黒のは 渦巻き動く 銀河模様の包みに  
魔法仕掛けの赤と金色の結び 深い箱  
耳を当てると 未来の汽笛の ような音

白のは 白雲旅する 青空模様の包みに  
魔法仕掛けの若草色の結び 真四角の箱  
鼻をかざすと 懐かしさを醸す甘い匂い

魔法をあつかう ありていぬものたちも  
ひとびとのおまつり あれこれ楽しむ  
ただし やっぱり へんてこで  
だけど やっぱり それもまた  
かげりある みち てらす あかるみ

ときどき ひかる ときどき うかぶ

その中身と 箱までの 冒険奇譚  
ひもとき ひらく その景色は

どうやら 部屋ほどの 箱の中  
まわり つつむは 巨大な箱で  
それを つつむも 巨大な箱  
それを つつむも...

. . .



犬先生：おーっこれは空のはじっこで極稀に生成されるという幻の綿砂糖菓子の結晶  
美味ー！



ラクシャさん：おおっ僕のは幻の1/150 アペンタジア銀河系鉄道模型せつとぶつかる  
痛いっ！



こたつじゅんぴ ばっちり  
よっこらしょっ と運ぶ先  
気づいたら 変化のあと

いろんな動物 ぬくもりのなか

珍しくぐっすり眠る 鹿  
おしりを出してもぐった うさぎ

蔓草まで すやすやと

小魚 泡つぶ 大の字の熊

仔猿 旅鳥の けづくろい

さて どうしようと 白と黒

少しあいている面 座ってみたら

動物 植物 すこし よけてくれた

おや足元 もふもふだらけ

見えなかった ちいさなけだま

こんなにいっぱい いたんだね

ぴよこ と顔出しあくびした仔狐

そのままおなかの上でまるまった

いちにちだけ こわくない、じゆうな一日 もらったら

みんなはたして なにするだろう

おや、のしのし 虎に 仔象に 蝶の群れ

野菊 ふくろう 始祖鳥 銀色の円盤まで

ぷるぷる見上げる 耳の後ろ なでつつ

白黒 よけて 座れるすきま あけてみた

さてはて いくとうに なったかな？

時と場所のはざまのおこた

凍えた身に やつとの、ひととき

・ ・ ・



犬先生：あははっこれへびさん、鼻より出入りするのよしたまえ。



ラクシャさん：君の腹宇宙の構造って...あいたっハトさん パンあげるから！



鼻 ふくふく

白犬 黒犬 たっぷり伸びして  
見回してみると 変化のあと

糸が通った こたつ 霧の深みを のぼっていた

ぼくら どこまで のぼるのだろう  
のぼったあと どうなるだろう  
うえとしたしか ないのかな

なぜのぼって いくのだろうか  
ほんとうは どちらに 動いているかな？

冷えた鼻 ペロリ

白が見た黒 底へ 舌の息 おくり  
黒が見た白 高みに耳を振り

似た影 糸こたつ すぎゆく  
影の こたつの のぼりおり  
みえかた うやむや それも 粒ずつ

2ひきは おなかがすいたので

白は 雲と蝶になる息をはき  
黒は 星と陰火になる息をふき

干し芋 わけっこ 食べました

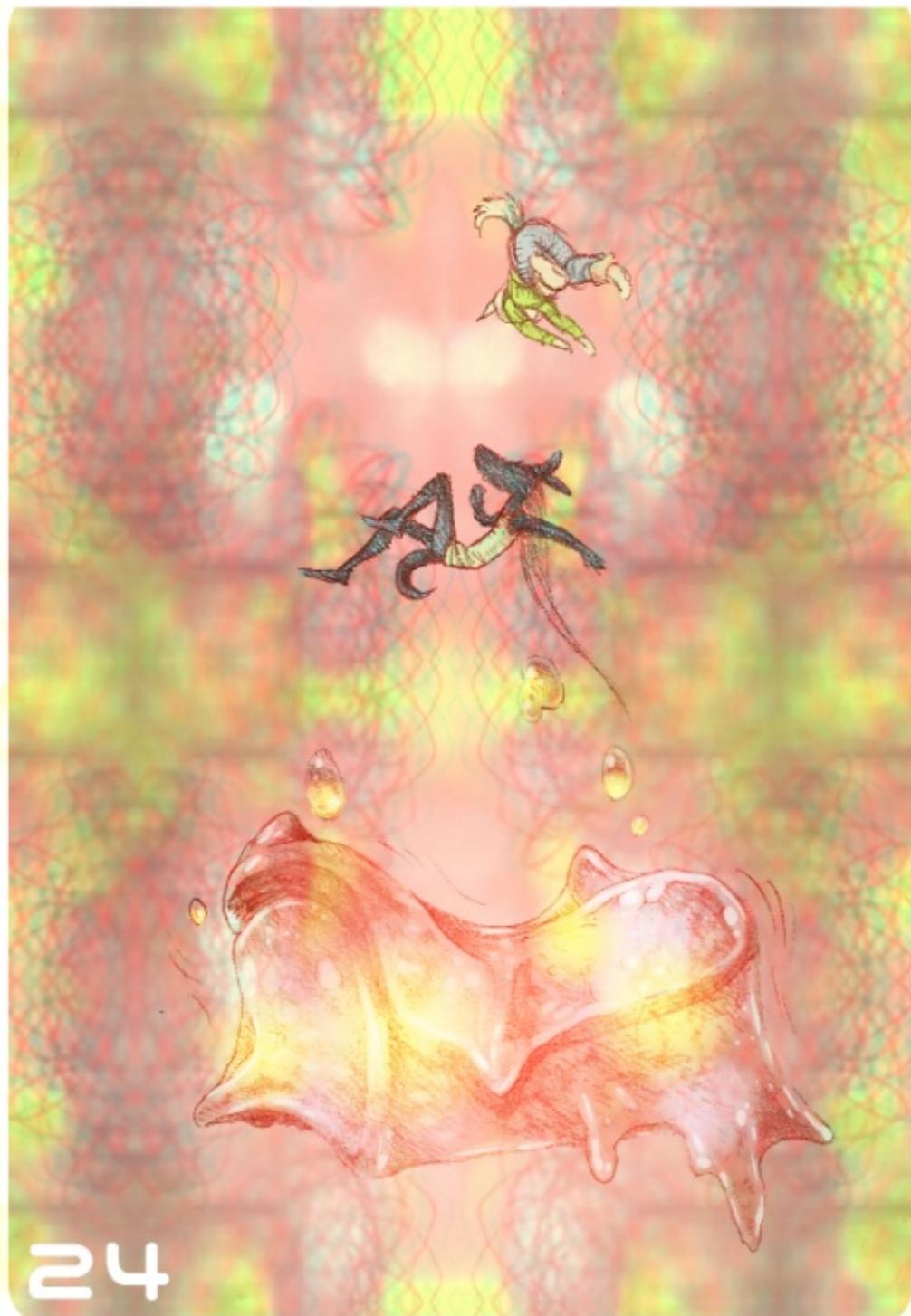
. . .



犬先生：すとりぼ効果のようなものかのう...むしゃむしゃ。んぐっ



ラクシャさん：糸の先や加重も 気になるところだね...むしゃむしゃ。はいお茶。



ひえた前足 ひとなめ  
尻尾もかちこち さあこたつだ  
...と思えば 変化のあと

こたつがぷるぷるゼリーになっていた

つつくと ふるえ

置いたもの お手玉ぼん

はじっこ かじるに かじれず  
ふとん めくるに めくれず  
白黒2ひきも お手玉ぼんぼん

すっきり舌出し 尻尾 威勢よく  
へんてこ2匹 はざまの童心

ぶらんこ ぶらん ふりこの空 ふる ふる 黄の葉  
水溜り ひととび しっばい 幾重にも 幻想の雲間  
ふりそそぐ 陽と 雲おぼろな 月 光ずつ

なぜ いま こんなに 残光まぶしく 沁みるのだろう

わふん どしん ぶつかりっこしておりてきた  
犬たち ペろんと こたつも ひとなめ  
あいた隙間 ほこほこ 丸くなりました

． ． ．



犬先生：外で中、中で外のようなものなのだよ。我が腹はそんなかんじ。



ラクシャさん：そして、ご安心を。犬先生は魔法ずぼんを着用しています。



雪雲を 吹き流す 風の影響く  
みぶるい起きた 白い仔犬だけ  
きょうは こたつ 変化のあと

あれ 黒犬さん どこだろう？

鼻ならし みまわし ぱたぱた  
尾とおなかに力入れ よんでも こたえない

黒 どこへいったの？  
歩けなかったぼくと いっしょに歩いてくれた かげ

一方 どこか 白犬さんを 探す仔も

かいだり 耳をたて とすとす  
尾とおなかに力入れ よんでも こたえない

白よ どこへいった？  
ひび割れた私の そばを歩き来た 光

おおきななかの ちいさななかの  
いのちのなかの こころのなかの

ぼくら 形なす粒ずつの 確かに対の仔 だった

アクアマリンの アルマンダインの 瞳 こそえ 潤み  
ふす... と白い仔 座り込んだら あれれ

あしもと 垂直反転  
うらにもこたつ うらには黒い仔

いなくなって なかったんだね  
へんてこ底越し ちゃんと2ひきは 2ひきだったね  
呼んでみたけど姿だけ 声が互いに 届かない

うつろい行くことの 光と影  
終わらず続くことの 影と光

愛らしい顔 元気な声 ふるふる 尾っぱ

ありて いぬものたちの 幻幾年 名残幾年

こころの？きおくの？

いつかどこかの 2ひき

背中あわせのぬくもり

. . .



犬先生：おや、ラクシャおらんな...超健康・骨虫椅子 出したのに。



ラクシャさん：わ～ この座椅子座り心地いいなあ...でも、犬先生どこだろう？



すきまなく並ぶ こたつたち  
そのなか一つ うろほろ一つ

鮮やかな模様 そこここに  
すきま ありますか とふとんで つん  
どうにも ぴっちり またうろほろ

大きなこたつと 小さなこたつたち  
すきま ありますか と ふとんをふった  
群れ 威勢よく 木の足がたがた またうろほろ

立派な こたつ 綺麗な こたつ  
戯れる通りは 気がひけて  
やんちゃな こたつ 荒ぶる こたつ  
駆け回る広場も むなしくて

強気な こたつに どなられて  
したたか こたつに みくだされ  
うろほろ うろほろ

ほんとうに ぬくもるところ どこだろう  
おいらのおでこ みかんのつけて  
ひえたあし あたためて ほっとわらったりする なにか

おいら ふるくてよごれちゃってるから だめかな  
もようも 品も知も なまえだって なんにもないんだ  
だれもおいら いらないかな

とびきり きゅうっと なったので  
長老こたつに とうとうと

わしらにはね まほうじかけの 一粒があるよ  
だれにも 一粒 だれにもとられない 一粒  
にているようで まったくちがう ひとつずつ

みずから おばけに ならずおるのは  
一粒が君に灯し 一粒に君がみせるから

かげもひかりも 幾千も幾万も

かなしみやしあわせ だれそれと  
比べ得るものじゃ ないね  
きみの一粒はもう 知ってる  
そしてまだまだ 幾億も 未知の粒 あるんだ

ときにかぎりが あるからこそ  
こころいっぱい ならしてごらん  
けがすためでなく あたたまるため

わしらは へんてこな こたつ  
こたえるものには 難しいけど それは どこかでわかるから

こたつ おーいと 呼んでみた  
こころで おおきく 木の足 きしませ

なんども なんども なんどめか

遠くで ひゃん！と 仔犬たちの挨拶 響いた

. . .



犬先生：お～よしよし、なら この私が君を アルティメット格好いい超温の魔法こたつに...



ラクシャ：しちやいかんってば！



ほこほこたつに だんだん変化  
赤い扉 青い扉と、 へんぺいな 蜜柑色の扉

ああ、もう このときか  
毎年だが、こたつというのは  
出るのが名残惜しいものなのう

黒犬さん 寝そべって 前足ぺろり  
長い耳も ふとん なでてる

私の暦では 温期があと50年ほど 続くのだがなあ

さあ、もう じかんだよ  
年々 こたつがすきになるけど  
日と月 あるから こたつが嬉しいんだ

白犬さん 黒犬さんの すねた背 ぼんぼん  
綿雲のような尻尾 ほいっとふり

来年はもっと しっかり しなくちゃだなあ

ふだんは対極の地と まほうと そのやくわり  
ありていぬものたちのかけあいを

おこたつ みまもっている

いってらっしゃい  
がんばってるの、あたしゃわかっとるよ  
おまちしております  
ほいじゃあの～  
いっしょにふゆ こえていこうね  
すやすや  
おかえり、さむかったろう  
ごはんくって、からだ きいつけるんだぞ  
だいじょうぶに していこう  
へこたれたら、わしとこで 足あっため

ほしの数ほどの おうち  
ほしの数ほどの こたつのなかの 少し不思議な 一台ずつ  
だれかを想って いるかもしれない

扉 がちゃり きえてく

なにかのどこかの こたつといぬの お話の粒

12月まで また 来年。

・ ・ ・



犬先生：やあ諸君、命の旅の程はどうかな？私はカニに尾を挟まれておるぞ。かわいい悪夢。

ではまた、12の月に...



ラクシャさん：皆さん、おつかれさまでした。体をあたため、水分補給をしましょう。腰には温湿布！

では、よいお年を...！





Thank you 2016,  
Lets' go 2017 !!

今年は、(こんなこたつ  
あったら 楽しげ)  
ごころで 描きました。  
(怖いのも少々…)

来年は お話ぶろぐの  
更新数は へりますが、  
夢十ヘン込めて 参ります。

では、ファンタスティックよきお年をっ!

Yune Utainu



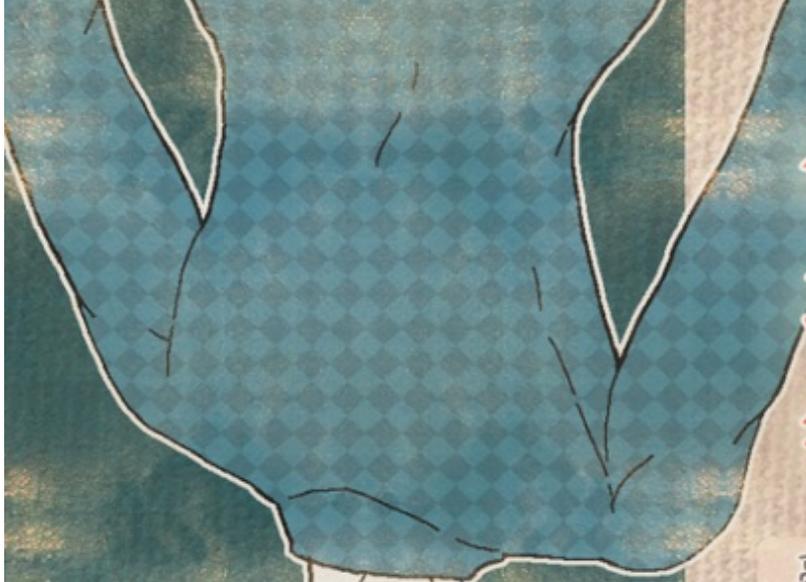
Thank you 2016,  
Le's go 2017!

あわあわするうちに、今年も過ぎてゆきました。  
毎度だけれども、早いものだなあ…  
来年のお話「裡橋おうらい」からは過る回更新に  
なりますが、真心で20で ふんばって参ります!

★Yune Utainu★

おまけ3 ぼつ始め頁、こんなでした。

---



今年の  
こたつは  
多元の2匹?

夢のどこかの、  
こたつにあたる  
知る人ぞ知る 白黒  
でも、何かが違う？  
次々 うつりかわる  
今とここ どんのかな？



▲ラクシャさん



犬先生 ▶

## いぬせんずの ぱられるおこた

<http://p.booklog.jp/book/111357>

こたつのお話、今年も出来ました。  
今回は、ヘンテコおこたのおはなしです。

だんだんたまって ころをかじる  
さまざまな こまごま

だけども いまは お茶とおこたと  
じんわり あったか 安心たいむ！

その、ほんの一粒 えがけてあれば...と 思いおります。  
それでは、リフレッシュよきお年を！

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/111357>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト